

## 第4学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

授業者 〇 〇 〇 〇

### 1 主題名

受け継がれる生命「D-(18) 生命の尊さ」

### 2 ねらいと教材

#### (1) ねらい

受け継がれる生命のたくましさに気付き、生命あるものを大切にする道徳的心情を育てる。

#### (2) 教材名

「バルバオの木」(新しいどうとく4 東京書籍)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第3学年及び第4学年の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導事項「(18)生命の尊さ」 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることを受けている。

生命を大切にして尊重することは、かけがいのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。生命とは、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、更には人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉える。生命の尊さについての理解を深めるために、生命は自分一人だけのものではなく、連綿と受け継がれてきたものであることや、自然の中で支えられ、育まれてきたものであることに気付くようにする。

#### (2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、人命救助の話題などから生命の大切さについてある程度は理解しているものの、実感を持って生命の尊さを捉えるまでには至っていない。また、食べることは、他の生き物の生命をいただいているということまで深く考える機会は少ない。そこで、児童にとって身近な「食」を通して、生命の支えなしに生きられない事実や、連綿と受け継がれる生命のたくましさを感じ得ることで、命あるものを大切にする道徳的心情を育てたい。

#### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、樹齢何十万のバルバオという大木が、飢えに苦しむ鳥やシカ、ゾウたちに、実や葉、最後には自分自身の幹を投げ出し、動物たちの危機を救うという創作の話である。バルバオの木が、自分を投げ出してまで、動物たちを救ったのは、どのような気持ちからなのかを深く考えさせるようにする。そして「食」と「生命」のつながりに気付かせ、生命は自分一人だけのものではないことを深く考えさせたい。

教材の活用に当たっては、鳥、シカ、ゾウのそれぞれの気持ちを考えさせてから、バルバオの木が自分を犠牲にしてまで動物達を助けようとしたことについて考えさせる。その上で、生きることと食べることとのつながりや、生命の連続性について考えることができるようにする。そして生きることの尊さや生命の大切さに気付かせ、どのような生命も大切にしようとする道徳的心情を育てたい。

4 学習指導過程

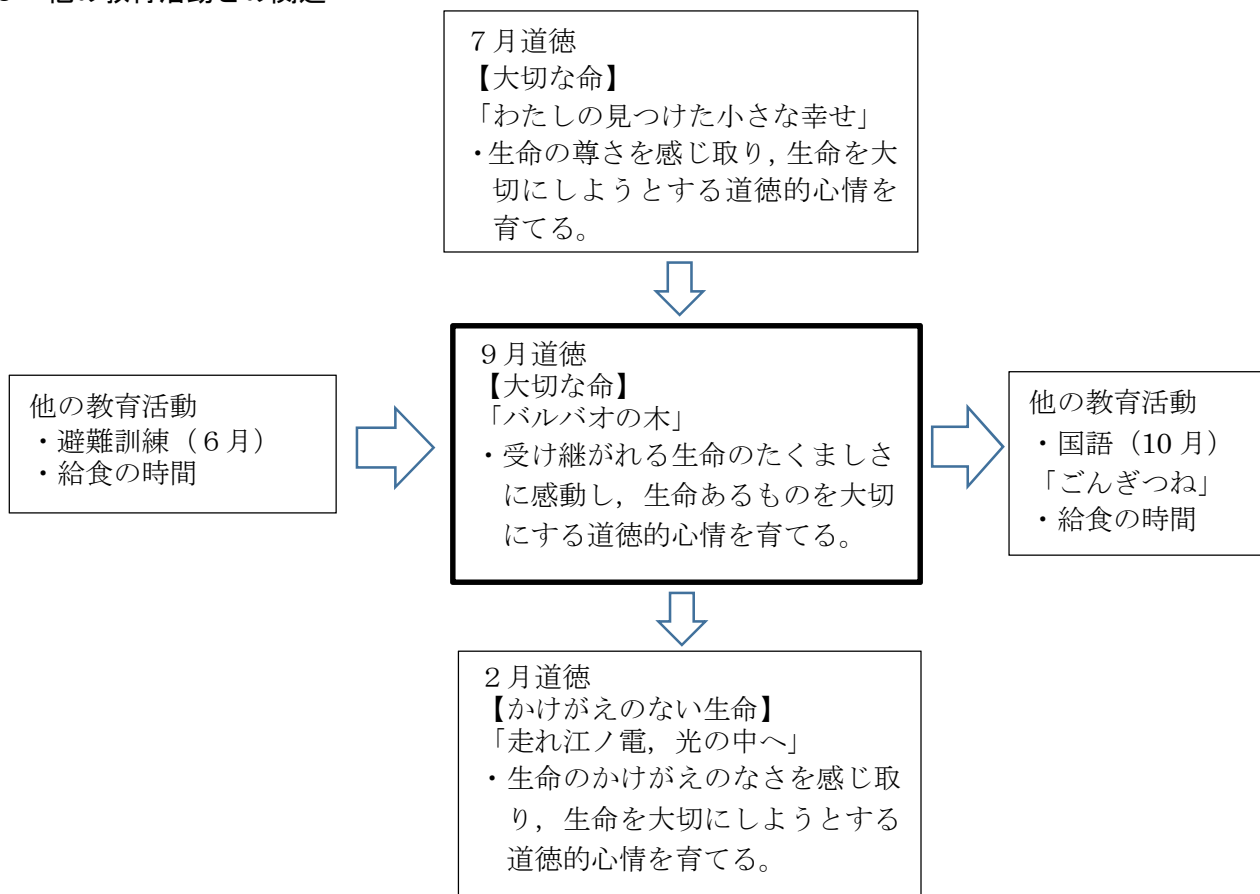
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 生きるために必要なことは、何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べること。</li> <li>・ 肉や魚、野菜。食べ物。</li> </ul> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生きることと食べることのつながりについて、考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の課題につなげるために、児童が考える必然性がある問題を提示する。</li> <li>・ 当たり前、食べていることは実は、生きるために必要なことだと、意識を持たせる。</li> </ul>
展開 前段 15分	<p>3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 鳥やシカたちは、どのような気持ちでバルバオの木の実や葉を食べたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やっと、木があった。</li> <li>・ 食べることができる。</li> <li>・ うれしい。</li> <li>・ ありがとう。</li> </ul> <p>○ 木の幹を食べなさいと言われたときの象の気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木の幹を食べたら、バルバオの木は死んでしまう。</li> <li>・ 食べないと、自分は死んでしまう。</li> <li>・ 食べていいのかな。どうしよう。なやむなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すぐに内容について話合することができるように、事前に教材を読ませておく。</li> <li>・ 食べるものがなくて、飢えて苦しんでいる時の動物達の気持ちを考えさせて、感謝して実や葉を食べていることに気付かせる。</li> <li>・ 多面的・多角的に考えさせるために、象が木の幹を食べるということは、バルバオの木がなくなってしまうことを捉え、象の葛藤する気持ちを考えさせる。</li> <li>・ 食べるか食べないかについて葛藤させるために、問い返しの発問を用意する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べたら、木はなくなってしまうよ。どうしますか。</li> <li>・ 食べないと、象は死んでしまいますよ。どうしますか。</li> </ul> </div>
展開 後段 20分	<p>4 生きることと食べることのつながりについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ バルバオの木は、自分の木のみきをゾウに食べさせているとき、どのようなことを考えていたのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の体はなくなってしまうても、また、新しい芽が生えてくるから食べてほしい。</li> <li>・ ゾウに自分の分も生きてほしい。</li> <li>・ 自分の体は、なくなってしまうてもゾウの体の中で生きているから、食べてもらいたい。</li> <li>・ ゾウが生き延びることができるのなら、自分は、長く生きているから、犠牲になってもいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを整理するために、自分の考えをノートに書かせる。</li> <li>・ 多面的・多角的に考えるために、ペアで話した後、全体で話し合い、多様な考えに触れさせる</li> <li>・ 前の段階で、象は木の幹を食べないと死んでしまうことを理解しているから、今度は、同じように象に生きてもらうためには、自分の体を与えなければならないことに葛藤させる。</li> <li>・ 葛藤させるために問い返しの発問を用意する</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べさせたら、自分はいなくなりますよ。</li> <li>・ 木は、象にどうしてほしいのだろう。</li> </ul> </div>

<p>終末5分</p>	<p><b>5 自己の生き方について考える。</b></p> <p>○ 命のつながりで大事だと思うことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも水や食べ物を粗末にしないで、全てを大切にしたいです。</li> <li>・これからは、食べ物を大事に食べようと思いました。</li> <li>・命の大切さを学び、私もバルバオの木のように命を大切に生きていきたいと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。</li> </ul>
-------------	--	---

**【評価】**

登場人物の心情を考えることを通して、生きることと食べることとのつながりについて、自分との関わりで考えようとしている。

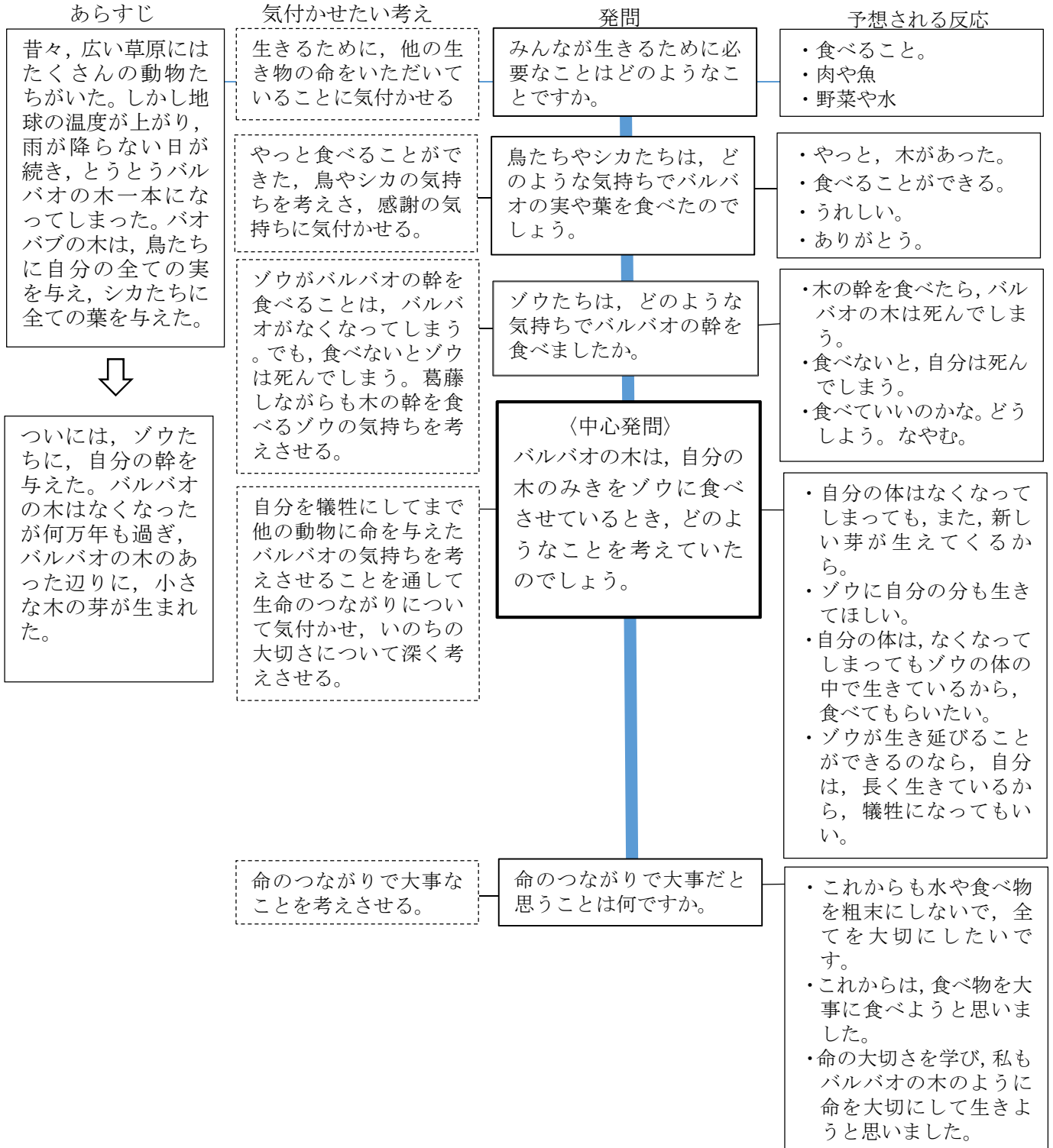
**5 他の教育活動との関連**



**6 補充・深化・統合の視点【深化】**

この教材は、食べることと生きることのつながりを考えることができる教材である。児童は、生命は大事なものだとは観念的には分かっているが、実感はあまり伴っていない。また、他の生き物の命をいただいていることを意識はしていない。そこで、食べるということは、他の生き物の命をもらうことであり、その上で、自分達は生きているということや、生命のつながりがあるということに気付かせ、生命あるものすべてを大切にしようという気持ちを育てたい。

## 7 教材分析・発問構成



## 8 準備物

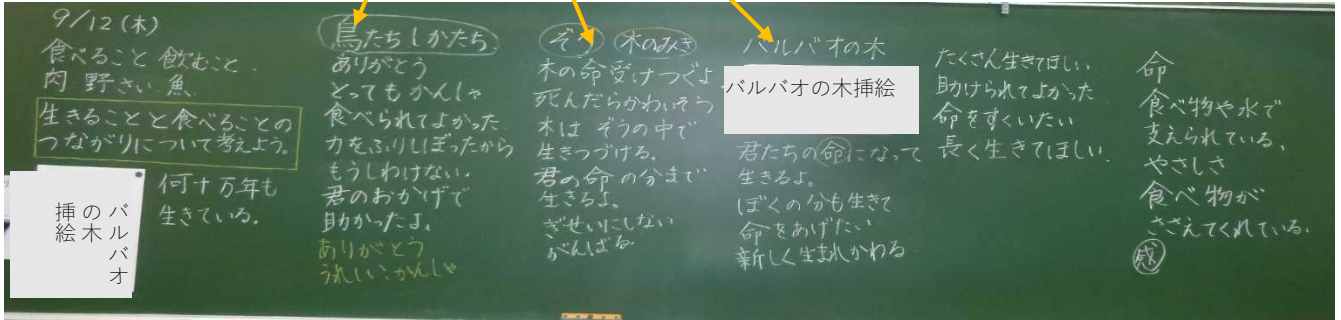
教師：教科書、場面絵

児童：教科書、ノート

## 9 実践の記録 (○成果, ●課題)

### 【板書】

それぞれの立場から気持ちを考えさせて、  
見比べることができるようにした。



### (1) 導入

#### 生きるために食べていることを確かめ、生きることと食べることへの問題意識を持たせた

私たちが生きるためには、他の生き物の命をいただいているということを導入で確かめ、生命のつながりについて意識を持たせるために、「みんなが生きるために必要なことは何ですか」と問い掛けた。

- 肉や野菜を食べるということは、他の生き物の命をもらっているんだということに、改めて気付くことができ、「生きることと食べることつながりについて考えよう」という課題に対して、問題意識を持たせることができた。

#### 実際のやり取り

T「今日は、生きることについて考えていきます。生きるために必要なことは何でしょう」

C「命」

T「うん、命がないと生きていけないね。生きるために必要なことについて、隣の人と話してみよう」

C「口」

T「口ってどういうこと？」

C「口は、食べ物や飲み物が入るところ」

C「食べる必要があります」

T「どのようなものを食べていますか」

C「肉や魚、野菜を食べています」

T「私たちは、他の生き物の命を食べて生きています。食べることで体がつくられています。今日は、生きることと食べることつながりについて考えていきます」

### (2) 展開

#### 登場人物の立場に立たせながら考えさせることで、自分との関わりで捉えさせた

鳥たちやシカたちが、どれぐらい飢えているのかを想像させ、バルバオの木が与えてくれた木の実や葉が、どれだけ有り難いものであり、それを食べたときに、どのような気持ちが湧いてくるのかを

考えさせた。ゾウが木の幹を食べるということは、バルバオの木の命はなくなってしまうことを想像させてから、木の幹を食べたゾウの気持ちを考えさせた。その上で、中心発問「バルバオの木は、自分の幹を象に食べさせながら、どのようなことを考えていたのでしょうか」につなげた。

- 鳥やシカたちが木の実や葉を食べたときには、「ありがとう」という感謝の言葉が多かった。しかし、ゾウの場面では、自分が食べるとバルバオの木が死んでしまう、食べないとゾウが死んでしまうという葛藤場面であるため、感謝の気持ちだけでなく、「バルバオの木の分も生きるよ」「無駄にはしないよ」という言葉も付け足され、深く命のつながりについて考えさせることができた。
- 中心発問までに、それぞれの立場で深く考えさせていたことで、バルバオが自分を犠牲にして命を与えた意味について、様々な側面から考えさせることができた。

#### 児童の考え

- ・君たちの命となって生きるよ。
- ・僕の分も生きてほしい。
- ・僕は、何十万年も生きたから僕の命をあげるよ。
- ・新しい芽となって、生まれ変わるよ。
- ・他の動物を助けることができてよかった。
- ・たくさん生きてほしい。
- ・助けることができてよかった。
- ・ゾウやシカや鳥たちの役に立ててよかった。これから、長く生きてほしい。

#### (3) 終末

##### 自己の生き方についての考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

- 終末では、「命のつながりで大切だと思うことは何か」と、授業を通して、考えたこと、分かったこと、これからどうしたいかをノートに書かせることで、児童がこの時間にどのようなことを大事に思ったのか見取ることができた。

#### 児童の記述

- ・今日の授業で、命の大切さについて知りました。これからも水や食べ物を粗末にしないで、全てを大切にしたいです。
- ・たくさん命について考えて、命の大切さを知ることができてよかったです。
- ・これからは、食べ物を大事に食べようと思いました。
- ・命の大切さを学び、私もバルバオの木のように命を大切に生きていこうと思いました。
- ・生きることを大切についてかんがえました。これから、命を大切にしていきたい。
- ・命というものは、一人に一つしかないから大切にしていこうと思いました。
- ・命の大切さについて、真剣に考えることができました。
- ・動物や人間は、食べ物や水やいろいろなもので支えられているんだなと思いました。
- ・生きることも食べることも大切だけど、気持ちは優しさが一番大切だなと思いました。なぜなら、バルバオの木の優しさがなければ、他の動物たちは生きることができなかったから。